

第25回

詩人たちの戦争

大橋愛由等



それは〈詩人たちの戦争〉だったのかもしれない。スペイン内戦（1936-1939）は、共和派側と叛乱軍側におおくの犠牲者がでた。われらのフェデリコ・ガルシア・ロルカは1936年8月19日に故郷グラナダでフランコ叛乱軍によって銃殺されている。このフェデリコの死は、同時代のスペインの詩人たちにとって衝撃が大きく、マチャード、アルベルティは追悼詩を書いている。内戦が終結したのち、二人は共和派側であったために、ピレネーを超えてフランスに逃げる。しかしマチャードは心労のために客地で死去。アルベルティはなんとかパリに逃れたのちアルゼンチンやローマで亡命生活を余儀なくされた。この戦争で忘れてはならないのは国際旅団という名の多国籍義勇兵が多く参加したことである。アイルランドの詩人チャーリー・ドネリーも参戦。「Even the olives are bleeding（オリーブさえ血を流している）」という言葉を残して戦死している。この内戦が導火線となって第二次世界大戦が勃発していることを忘れてはならない。ちょうどこの構図がそっくりそのまま今のロシアによる〈ウクライナ侵攻〉→〈第三次世界大戦〉にも連関しそうで、怖い。

ロルカ詩祭

反復される
詩人たちの
悲しみよ!!



オリーブさえ血を流している
Even the olives are bleeding



〈朗読の伴奏者〉

田村太一

神戸市出身。16歳～23歳までアメリカで過ごす。ランディー・ワイヤーに師事。ロックバンド「KAYA」のギタリストとしてメジャーデビュー。バンド解散後、ソロギタリストとして音楽ジャンルにとらわれない音楽活動を展開している。

〈詩祭スケジュール〉

8月20日(土)午後5時 開場

1部 17PM530～17PM600

ロルカ詩の朗読

2部 17PM615～17PM830

詩人たちの自作詩朗読

〈場所〉スペイン料理カルメン(神戸市中央区北長狭通1・7・1 電話078・331・2228 650001)

JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮駅」から徒歩三分

〈料金〉A:3980円(チャージ・税込み) ①夏の特選

スープ ②メインディッシュ ③パエリア

(4)コーヒール (5)本日のデザート

B:6000円(チャージ・税込み) ①ワンドリ

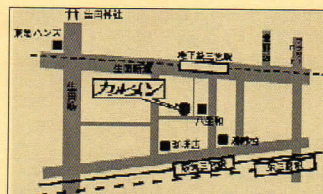
ック(選択可) ②本日のタパス

〈特典〉当日参加者の方全員に、第二部参加の詩人たちが朗読する詩作品掲載の『八月一九日詩集25巻』を進呈します。

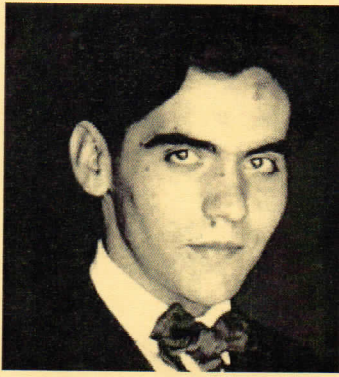
ロルカ詩祭会場 スペイン料理 **カルメン**

☎078-331-2228

神戸市中央区北長狭通
1-7-1 カルメンビル2F
阪急・阪神・JR・地下鉄の
各三宮駅から徒歩1～4分



〈ロルカ詩祭〉は、スペインの国民的詩人であるフェデリコ・ガルシア・ロルカ(1898-1936)がファシストによって銃殺された8月19日近くの土曜日に開催する詩の朗読会です。ロルカ生誕100年の1998年から神戸三宮のスペイン料理カルメンで開催しています。



2022年
8月20日

〈朗読者〉

①安西佐有理 ②大西隆志

③大橋愛由等 ④金里博

⑤今野和代 ⑥千田草介

⑦高木敏克 ⑧高谷和幸

⑨月村香 ⑩永井ますみ

⑪西海ゆう子 ⑫にしもとめ

⑬野口裕 ⑭原田哲郎